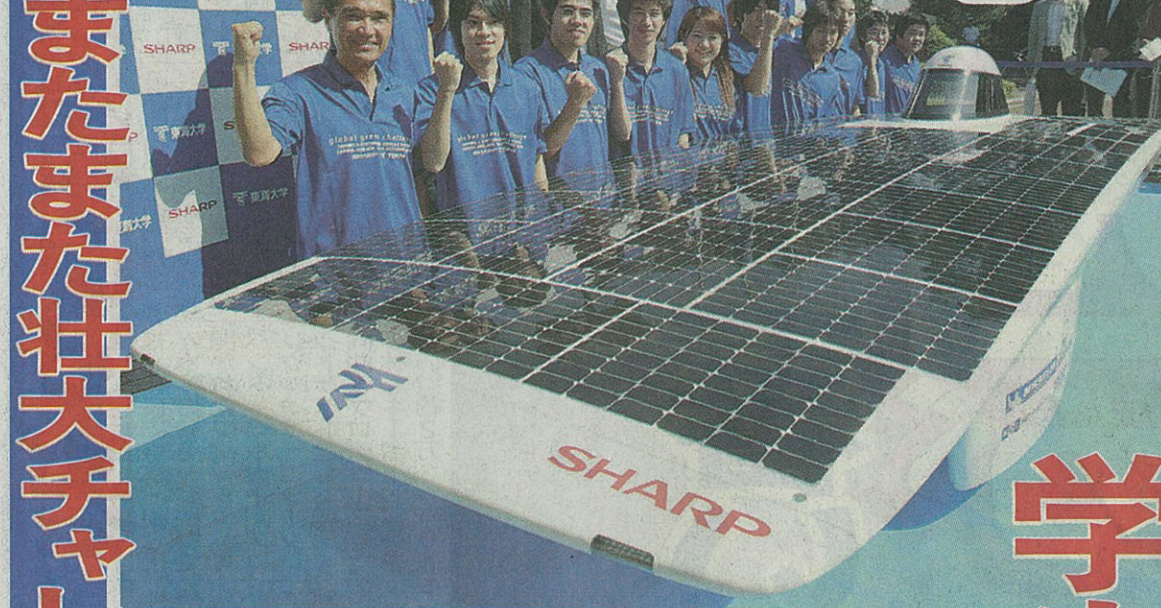


東海大 太陽カー 世界一を目指せ!



ソーラーカーを前に意気込む篠塚(左端)と東海大チームのメンバー。平塚市の同大湘南キャンパスで(北村彰撮影)

またまた壮大チャレンジ!!

★チーム体制 東海大工学部電気電子工学科の木村英樹教授がプロジェクトアドバイザーを務め、チームマネジャーは同3年の竹内豪。ドライバーは篠塚のほか、工学部電気動力機械工学科2年の伊藤樹、

★参戦スケジュール 9月中旬に秋田県・大潟村のソーラー・ポーツラインでテスト走行を行い、今月末に豪州へ輸送。18-22日にダーウィンを整備および公道でテスト。23日が公式車検、24日が予選、25日にダーウィンをスタートし、29日にアデレードにゴール。

同4年の徳田光太、工学部OBの佐川耕平ら総勢19人。

★Toukai Challenge 全長4980mm×全幅1640mm×全高956mmの大きさで、重量は150kg以下の超軽量。

シャープ製の交換効率30%の化合物太陽電池を規定の6平方メートルに敷き詰め、トップクラスの1.8路の出力を誇る。

記者発表直後に篠塚が披露目録を行い、「去年のクルマより大分乗りやすい。直線が多いのでサスのセッティングも柔らかめにした。でも、暑いねえ」と汗だくになっていた。

★グローバル・グリーン・チャレンジ 1987年に「ワールド・ソーラー・チャレンジ」としてスタートし、99年から隔年開催。今年から燃料電池車や電気自動車のカテゴリーが追加されて名称も変更された。ダーウィンからアデレード間の3021km(タイム計測は3000km)を走りきるタイムレースで、走行時間は8-17時に規定されている。

ソーラーカー部門は2クラスに分かれ、東海大は総合優勝となるチャレンジ・オープンクラスにエントリーする。最強のライバルは、オランダのデルフト工科大学チームで過去4大会連続中。また、米シシガン大学チームは150人体制で、F1チーム並の機材を運ぶという。

篠塚OBの経験と学生魂

「上位争いしたい」と熱っぽく語った篠塚

昨年南アでいきなり

昨年の仏ルマン24時間レース挑戦など個性的な活動をしている東海大が、また世間の耳目を引くけるチャレンジの概要を発表し

「今年もまた東海大の学生と一緒にレースをすることになりました。昨年、南アの大会に参加させてもらい、20代の学生と過ごして大きな刺激となりました。私の経験、そして学生たちのチャレンジ精神をコラボしていきたい」と篠塚。昨年の9月末から10月にかけて

宇宙技術の太陽電池

東海大の体制は、学生チームとして申し分のないもの。昨年12月に設計をスタートさせた「Toukai Challenge」は、お披露目されたこの日朝に完成するという慌ただしさだったが、ソーラーカーの肝になる太陽電池には、人工衛星などで使われる宇宙用化合物太陽電池を搭載。日本で唯一、宇宙航空研究開発機構(JAXA)に認定されたメーカーのシャープが、宇宙以外の使用で初めて提供したという。家庭用の太陽電池の変換効率が14-15%なのに対し、化合物電池では世界最高水準の30%を記録する最先端技術だ。

そのほか炭素繊維強化プラスチック製のボディも新たに開発し、タイヤもミシラン製のソーラーカー専用。世界に挑める体制を築いたという。パネルから何から新しいので、1回回つくりとテストをすることが大切。でも基本は学生がたくさんの経験をする。とだから篠塚。自分の子供と同世代の若者と力を合わせ、まったく新しい世界への挑戦に意欲満々だ。(田村尚之)

て南アフリカで行われた「サウス・アフリカ・ソーラー・チャレンジ」でいきなり優勝したことで、東海大のソーラーカープロジェクトでは欠かすことできない存在となったようだ。

それにしても今年の挑戦は壮大だ。挑むのは事実上の世界一を競う「グローバル・グリーン・チャレンジ」のソーラーカー部門。世界中からすでに31チームがエントリーしており、南アのようにあっさりV奪取とはいかないのだ。「オランダ(ヌホン・ソーラー・チーム)やアメリカ(ユニバーシティ・ミシガン)、ベルギー(ユニコア)などが有力チーム。僕らの目標は表彰台だが、そこからはほれるのか、1位になるかは分からない」と篠塚は激戦を予想する。



デモ走行も注目を集めた

10月24日から「グローバル・グリーン・チャレンジ」

東海大は7日、神奈川県平塚市の湘南キャンパスで、グリーンエネルギー車両で競う世界最大規模のレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」(10月24-31日、オーストラリア)の参戦概要発表会を行った。同大学のチャレンジセンター・ライトパワープロジェクトの学生らが制作したソーラーカー「Tokai Challenger」を自ら組織したチームで挑む。大きな挑戦だ。ドライバー陣を率いるのは同大学OBの篠塚建次郎(60)で、早速「モラン」を披露して上位進出を誓った。

